

「復興五輪」の開幕に当たっての平沢復興大臣からのメッセージの公表について

東京大会は、明日21日に、開会式に先立ち、福島県で行われるソフトボールからスタートし、福島県のあづま球場ではソフトボールと野球、宮城県の宮城スタジアムでは男女のサッカーの試合が実施されます。

本大会の開幕に当たり、本日付けで「復興五輪」への思いを内容とする平沢復興大臣からのメッセージを別紙のとおり公表し、同メッセージ動画が当庁の「復興五輪ポータルサイト」に掲載されるほか、東京大会開催中、国内外のメディアの取材拠点として設置されるメインプレスセンター（MPC）内「復興ブース（「Recovery and Reconstruction Games」ブース）でも放映されます。

復興庁としては「復興五輪」の理念を実現するため、交通広告やメインプレスセンターなど多様な媒体・機会を活用して、引き続き、震災支援への感謝や復興しつつある被災地の姿・魅力を発信してまいります。

（復興五輪ポータルサイト）

<https://www.reconstruction.go.jp/2020portal/>

「復興五輪」の開幕に当たっての平沢復興大臣からのメッセージ

いよいよ開幕する東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は、東日本大震災から 10 年という節目の年に「復興五輪」として開催されます。新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が一年延期になり、多くの競技が無観客での開催となっても「復興五輪」の理念に変わりはありません。

被災地は震災で壊滅的な打撃を受けましたが、被災された方々の絶え間ない御努力と、国内はもとより世界各地の方々による御支援・御協力により、大きく立ち直り、その復興は確実に進んできました。発災時に多くのご支援をいただいた国内外の方々に改めて感謝申し上げるとともに、東京大会を通じて、この感謝の意と震災の被害から復興しつつある被災地の姿を発信していきたいと思っております。

東京大会の聖火リレーは、3月25日に福島県のJヴィレッジがグランドスタートの地となり、その後、被災3県をそれぞれ3日間巡りました。そして、東京大会は、開会式に先立って7月21日に福島県で行われるソフトボールからスタートし、福島県のあづま球場ではソフトボールと野球、宮城県の宮城スタジアムでは男女のサッカーの試合が実施されます。

今回の東京大会と被災地との関係についていくつか述べますと、メダリストに手渡されるヴィクトリーブーケには、岩手県産の lindou、宮城県産のバラやヒマワリ、福島県産のトルコギキョウなど、主に被災地で栽培された花が使用されます。また、選手村のカジュアルダイニングでは、被災地の食材を使ったメニューが大会期間を通じて提供されます。被災地の生産者の方々は、一生懸命思いを込めてつくった花や食材を東京大会という大きな舞台で世界に披露できることを楽しみにされています。

また、被災地の食材・花だけでなく、選手村で大会期間中選手の生活を支えるビレッジプラザ施設や大会関連施設内の木製ベンチには、被災地のスギなどの木材も活用され、「復興五輪」を体現する取組が実施されています。

これらに加えて、復興庁としても、被災地の子どもたちに対する復興と地域の魅力への理解促進につながるよう、サッカー、ラグビー、野球を通じた子ども復興五輪を今月岩手・宮城・福島の3県で開催いたしました。

更に、都内の山手線の車内や車体等を活用した交通広告を実施するとともに、東京大会のメディアの拠点となるメインプレスセンターの一角に復興ブースを設置し、復興関連のスライドや動画を活用して、大会期間中、被災地の復興の姿や魅力の情報発信を国内外に行い、「復興五輪」への理解を深めてまいります。

一方、被災地の復興の歩みが確実に進む中、原子力災害のあった福島県をはじめとする被災地の農林水産物は依然として風評被害という課題が残っています。

被災地では、農林水産物に対して出荷前に徹底したモニタリング検査などを行い、結果も公表しています。近年は、放射線基準値を超過した食品はほとんど存在せず、仮に基準値を超過した場合でも、市場に流通することはありません。しかしながら、未だに14の国・地域では、被災地の農林水産物の輸入規制が行われています。

世界中の注目が集まる東京大会も含めて、科学的根拠に基づいた正確な情報を国際社会に対して発信し、引き続き国内外の風評の払拭に向けた取組を推進してまいります。全ての方に被災地の農林水産物が安全であることを理解していただきたいと思っています。

被災地には四季折々の美しい風景をはじめとする魅力的な観光地もたくさんあります。震災の記憶と教訓を伝承するため、多くの新しい震災遺構施設も整備されています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、今すぐに被災地に足を運んでいただくことは難しいですが、感染症収束後には国内外の多くの皆様に、被災地を訪れ、その魅力を是非とも実感していただきたいと思います。

被災地と国内外の多くの方々がつながっていく今回の東京大会が、被災地の方々に自信・希望・勇気を与え、次代を担う被災地の子どもたちにとっても誇りを持てるような機会となり、復興の後押しとなることを切に願っています。

令和3年7月20日
復興大臣 平沢 勝栄